

登録コード	A4B09200	開講年度	2026			
授業科目	動物栄養飼料学				担当教員	上野 豊 他
英文授業名	Animal nutrition and feed science					徳武 優佳子
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限	対象学生
講義室	農学部 2 6 番講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 0 2 5 Aカリ					
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。			.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。		
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。			【情報分析・発信力】 論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、健康長寿					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	1 - 7 回目に栄養素とその消化吸収、代謝、栄養学各論について解説し、8 回目に達成度確認のための中間試験を実施する。9 -15回目飼料評価、飼料各論、飼料製造と流通について解説し、16回目に期末試験を実施する。					
(5)授業計画	第 1 回：概説・栄養素の化学1（タンパク質とアミノ酸の概要） 第 2 回：栄養素の化学2（炭水化物・脂質・脂肪酸の概要） 第 3 回：栄養素の化学3（ビタミンとミネラルの概要、栄養素としての水） 第 4 回：消化と吸収（消化管の構造と機能、栄養素消化吸収機構の概要） 第 5 回：栄養素の代謝1（タンパク質とアミノ酸の代謝に関する概要） 第 6 回：栄養素の代謝2（エネルギー代謝に関する概要），単胃動物の栄養学 第 7 回：反芻動物の栄養学、家禽の栄養学 第 8 回：前半のまとめ、中間試験 第 9 回：栄養価の評価とその方法 第10回：飼料の生産・加工・流通 第11回：飼料各論1（動物質飼料、穀類、ぬか類） 第12回：飼料各論2（マメ類、油実類、油粕類、特殊な飼料資源、添加物） 第13回：飼料各論3（草本類、乾草・サイレージ） 第14回：副産物・低利用バイオマスの飼料利用 第15回：後半のまとめ・授業アンケート 定期試験					
(6)自主学習の指針	自主学習を通じて、自分自身の日常生活も含め、動物が行う複雑な生命活動への関心を高めていくことが望ましい。					
(7)成績評価の基準	次の評価基準に基づき成績評価を行う。 秀：授業の達成目標の水準から見て卓越している 優：授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良：授業の達成目標の水準よりやや上にある 可：授業の達成目標の水準にある 不可：授業の達成目標の水準より下にある					
(8)事前事後学習の内容	毎回の授業内容について，配布資料・参考書等を参考に行うこと。					
(9)テストやレポートの予定	毎回の授業で小テストまたはレポートを行う。 中間試験（筆記試験）及び期末試験（筆記試験）を実施する。中間試験までの7回の授業のうち3回以上、期末試験までの15回の授業（中間試験を含む）のうち6回以上欠席した場合は、それぞれの試験の受験を認めないので注意すること。					
(10)成績評価の方法	授業態度15%、毎授業回で行う小テスト15%、中間試験35%、期末試験35%で評価する。小テストは標準的な達成レベル、中間試験と期末試験は理想的な達成レベルを最高点として難易度を設定して行う。					
(11)質問、相談への対応および連絡先	授業時の対応を原則とする。または、連絡先へ電子メールによる問い合わせとする。 連絡先 上野 豊 ytkuyeno@shinshu-u.ac.jp （1回～8回） 徳武 優佳子 tokutake@shinshu-u.ac.jp （9回～15回、期末試験）					
(12)履修上の注意	特になし					
【教科書】	特に指定しない					
【参考書】	動物の栄養 第二版（唐澤豊、菅原邦生編，文永堂） 動物の飼料（唐澤 豊編 文永堂） ほか、授業時間中に適宜指示する。					